

参考例 1

春に咲く野草たち（観察した日：平成 22 年 4 月 18 日（日）と 4 月 24 日（土）。2 日とも晴，観察場所：江戸川河川敷と我が家のまわり）

		
<p><b>セイヨウタンポポ</b> ヨーロッパ原産の帰化植物。西洋（ヨーロッパ）タンポポの意味である。西洋では食用にするらしい。</p>	<p><b>カラスノエンドウ</b> 他の花には黒いアブラムシがたかっていた。めしべはやがて真っ黒なさやになる。</p>	<p><b>ヒメオドリコソウ</b> ほとんどの花は終わっていた。下の方は花びらが落ちていた。名前は，姫踊子草の意味。</p>
		
<p><b>ノヂシャ</b> 小さく，うすい青色の花が江戸川の土手沿いに数多く見られた。ヨーロッパ原産の帰化植物。野生のチシャの意味がある。</p>	<p><b>オオイヌノフグリ</b> 春によく見かける植物の一つ。うすい青色が美しい。ヨーロッパ原産で，明治初期に日本に帰化した。</p>	<p><b>ハルジオン（ハルジオオン）</b> ピンク色の花びらが美しい。ヒメジオンは，茎が詰まっているが，これは中空。名前は，春紫苑の意味。</p>
		
<p><b>タチイヌノフグリ</b> オオイヌノフグリの花のミニ版。可愛い花を咲かせる。ルーペで観察するとよい。</p>	<p><b>キュウリグサ</b> もむとキュウリそっくりのにおいがする。花は小さい。</p>	<p><b>アカツメクサ</b> シロツメクサより大柄で，草丈も高い。シロツメクサより一足早く咲いていた。</p>

参考例 2

		
<p><b>ナズナ (ペンペン草)</b> 花の中のめしべをルーペで観察するとハート型でかわいい。ペンペン草は、三味線のバチの意味。</p>	<p><b>スズメノカタビラ</b> イネ科の植物。カタビラ（帷子）とは一重の着物のことをいう。雀の帷子の意味。</p>	<p><b>ジシバリ (イワニガナ)</b> タンポポによく似ているが違う植物。タンポポもこれと同じキク科。茎が地面にはりついているので地縛りの意味がある。</p>
		
<p><b>ヘビイチゴ</b> 赤い実をつける。漢名「蛇莓」は人間が食べず、蛇が食うものという意味だそうだ。</p>	<p><b>カタバミ (スイモノグサ)</b> もうすぐ花を咲かせることでしょうか。漢名「酸い物草」は酸味があるところからつけられた。</p>	<p><b>ムラサキカタバミ (キキョウカタバミ)</b> 南アメリカ原産の多年草。観賞用に輸入されたものが野生化したらしい。</p>
		
<p><b>タチツボスミレ</b> 道ばた、山道、森の中など、どこでも見られる。直射日光のあたらない所に咲いている、きれいなスミレ。</p>	<p><b>ギシギシ</b> 大きくまっすぐに立っている。ギシギシの名はもと京都の方言らしいが意味は不明である。</p>	<p><b>オランダミミナグサ</b> ミミナグサという名は、葉がネズミの耳によく似ており、若い葉は食用になるからだろう。日本名は「オランダ耳菜草」。</p>

### 参考例3 ナズナ

